



ミュージカル落語



さんゆうていきゅうと 三遊亭究斗

この夏

フレンズ企画がお送りする

ミュージカル落語。

初めて耳にする方も多いのでは

ないでしょうか。

いったいどんな話が、どんな音楽が

飛び出すのか。

期待と好奇心でいっぱいです。

今回はピアノとのコラボレーションです。

いろんな世代に楽しんでいただけて

落語と歌とピアノまで楽しめる

とてもお得なコンサート。

どうかご家族そろってお楽しみください。

公演予定

7月21日(日)

17時開演

森のホール

入場料(全席自由)

フレンズ会員 2,000円

(会員本人のみ)

一般 2,500円

チケット発売日

フレンズ会員 5月 4日(土)

一般 5月11日(土)

未就学児のご入場はご遠慮ください。

ピンチを チャンスに変える

キュートな生き方

究斗さんはミュージカル俳優の経験を生かしてミュージカルと落語の融合「ミュージカル落語」に挑戦しています。

今回の演目「一口弁当」はもっとも依頼が多く、イジメ撲滅の願いを込めた感動的な作品。

ある少年が、ひとりの老人から「笑いのポジティブシンキング」を教わり…。

「ありがとうが世界を変える絆39」では「ありがとう」の言葉の力で町中が変わっていく、笑いにあふれた物語です。



ピアノ
伊興木 慶子
いよき けいこ
愛知県立芸術大学卒業

フレンズ第21回総会

4月6日(土)

午前10時30分から

光のホール



今年のアトラクションは みんなで歌おう

好評をいただいている「うたごえ♥フレンズ」が総会に出張します。固い雰囲気のある総会とは気分一新、大きな声で歌って楽しい時間をお過ごしください。

一年たつのは早いもので、今年も

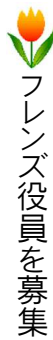
フレンズ総会の開催される日が近づいてきました。

総会は2018年度の活動の報告、そして2019年度の予算を決める、大事な会議です。

是非ご参加ください。

総会の後は、楽しいアトラクション

をご用意しています。



フレンズ役員を募集

2019年度フレンズ役員としての活動を希望される方は、総会案内に同封されたハガキか、文化の家の事務局までお申し出ください。

(0561613411)



フレンズ会員登録

更新のお願い

2019年度に向けて、フレンズ会員の登録更新がまだお済みでない方は、文化の家の窓口で受け付け中です。お早めに登録の更新をお願いします。

研修旅行のご案内

多治見市 モザイクタイルミュージアム



©Akitsugu Kojima

美しいタイルの世界へ行ってみませんか？このミュージアムは、モザイクタイル発祥の地でもあり、全国一の生産量を誇る岐阜県多治見市笠原町にあります。設計は藤森輝信氏によるもので、外観は原料を掘り出す「粘土山」を思わせるユニークなデザインです。ミュージアムは1階から4階まで。各階ごとに新旧様々なタイルに出会うことができます。

岩村城下町の散策

岐阜県恵那市の岩村城は、織田信長の叔母・おつやの方が城主だったことから「女城主の里」とも呼ばれています。今回はお城ではなく、江戸時代から続く1.3キロに及ぶ歴史的町並みを残す城下町を散策します。町の中にはNHKのドラマ「半分、青い。」のロケ地になった商店街があり、昭和の時代も楽しめます。

5月10日(金)

会費 2,500円

募集人数 27人

受付 4月23日(火)より

文化の家窓口

電話受付は翌日から

コース予定

- 9時 文化の家出発
- 10時 モザイクタイルミュージアム
見学
- 12時 岩村城下町散策と昼食
- 15時 現地出発
- 17時 文化の家到着

長久手のお城

長久手城

長久手城址は城屋敷の一角に小さな公園として残されています。

遺構は消滅し、城主ゆかりの観音堂、子孫が供養のために建てた石標、昭和58年、有志により寄進されたお地藏様などがあります。

城ではなく城館

一般的にイメージする城は、織豊期(織田信長と豊臣秀吉が中央政権を握っていた時代)に始まり江戸初期に発展した様式です。

それ以前、戦国時代までの城は、土を削って堀を作り、盛り上げて土塁を作り、その区画内に建物や庭園などが配置されているだけのもので、軍事施設としての城郭と一族の居住空間としての居館を併せ持ち「城館」とよばれます。城館は地侍や名主など小領主支配の拠点として出発し、有事のときに城や砦として取り立てられるだけの条件も備えていました。このような城が、数の上では圧倒的に多いのです。

長久手には城館跡と呼べる遺跡

が4か所あります。岩作城、岩作西城、長久手城、大草城です。

城館が作られた時代

戦国時代の長久手を含む尾張北東部は、松平氏の勢力下におかれしかもそこは、織田勢力との接点ともなる不安定な地域でした。

また長久手は全国有数の窯業生産地で、農業と共に村の経済を支えていました。

城館の形状

堀をはさんで、方形の東城と西城が並立する構造で、それぞれの総面積はおよそ1200平方メートルであったことがわかっています。



長久手城址碑

長久手城の歴史

長久手城の築城は、永享年間(1429~41)と伝えられ、何人かの居住のあと、弘治2年(1556)以降加藤太郎右衛門忠景が旧城を修築して居住。そして天正12年(1584)の小牧・長久手合戦時は

家康に従い、義弟岩崎城主の丹羽氏次の留守を預かって池田恒興に敗れ戦死しました。長久手城付近も戦場となり、焼かれて廃城となりました。その後江戸時代の文化6年(1809)子孫の尾張藩士が訪れ、石標を建てて供養しました。



「加藤太郎右衛門忠景宅址」の石標



お地藏様は小牧・長久手の戦での、多くの無名の戦死者、処刑者を供養するために建立されました。

この城館は遺構こそありませんが、時の権力者たちを支えたのは、まぎれもなく無数の名もなき人々なのだということを伝える、大切な場所になっています。

(二村記)



参考・引用文献

- 「長久手町史本文編」
- 「長久手町史資料編5」
- 「平成20年度 長久手町郷土資料室 長久手の地名展」
- 長久手町教育委員会
- 「長久手の地名Ⅲ」小林元著

観音堂

長久手観音は、城主加藤氏の守り観音でしたが、落城するとき奥方が土塁の中に隠し、後年掘り起こされました。現在、観音堂はがらんどろで観音様は豊善院に遷座されました。

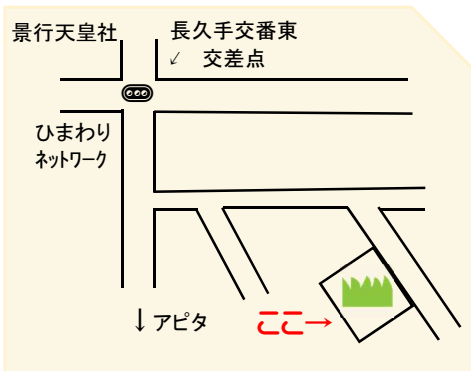
そこで編集部員が打越の西小学校北にある豊善院を訪ねてみたところ、高さ20センチほどの小さな観音様は本堂の中の薬師如来像と一緒に丁寧にまつられていました。

地図

江戸時代には農家が建て込んで遺構はかなり崩れていました。そして近年の区画整理で地形が大きく変わりました。東南120メートル先に「血の池公園」があります。

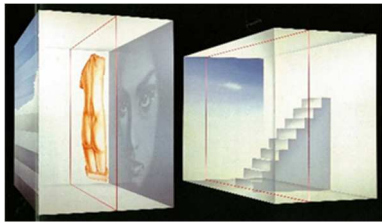
地名の標識

長久手合戦時、加藤太郎右衛門忠景の一族の住む城館があったことからこの地名になりました。

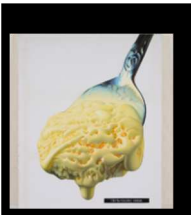


あいちトリエンナーレ 2019 にむけて

愛と知のちからパート XIII 「三尾公三・上田薫展—時代を超えるリアルと幻想—」



三尾公三



上田薫

4. 17(水) ▶ 4. 25(木)

10:00~19:00 ※休館日 4/22(月)
長久手市文化の家展示室 **入場無料**

毎年恒例の、愛知にゆかりのある近現代の洋画家の作品を集めた美術展。あいちトリエンナーレ開催年にちなんで現代美術の分野で著名な三尾公三氏及び上田薫氏の作品を展示します。**三尾公三氏**は、不思議な遠近感をはらんだクールで幻想的な非日常空間を描き、人と人、人と自然、人と絵画など、さまざまな絆を表現しています。そのファンタジックな表現は、時代の閉塞感をうちやぶり、未来への夢や希望を抱かせてくれるものと、内外で高く評価されることとなりました。

上田薫氏は、卵やジャム、スプーンといった「モノ」を、独自の優れたリアリズム表現で絵画化しています。多くの作品は、光できらきらと輝いているように見え、本物と見間違えるほどです。ファンタジックアートの巨匠・三尾公三、スーパーリアリズムの巨匠・上田薫の作品を間近で見ることができる贅沢な企画です。ぜひ、ご自身の目でお楽しみください！
文:中山真一(名古屋画廊 代表取締役)

【平日マチネコンサート】

午後の^{たやす}佇み

「心に響く春の歌声」



5. 16(木)

13:30 開場 14:00 開演
森のホール

出演: 吉田珠代(ソプラノ)
青木ゆり(ピアノ)

料金:【前売・当日】500円

平日の昼間に、ふらっと気軽に立ち寄れるコンサート「午後の佇み」シリーズ。ワンコインで、豊かな午後のひとときを楽しめます。ランチやティータイムと併せて、ご夫婦やお友達と楽しんでみてはいかがでしょう？

今回の出演者は、世界的な音楽家と数多く共演し、高い評価を得たソプラノ歌手吉田珠代による珠玉の名曲集。響きゆたかな森のホールで、豊穡な声の魅力をお楽しみください。

ひとりごと

この春号は「平成」最後の機関紙。
次の夏号が「新しい元号」の最初の機関紙。
特に紙面が変わるわけではないけれど
気持ちだけはリフレッシュして
楽しい紙面を作っていきたい。(み)



大好きな木

ほっと
すぱーす

尾張旭市在住 Y

時々、近隣の公園で開催される自然観察会に参加しています。
これが、とても楽しいんです。いつも見かける足元の雑草や、見慣れた木にも名前があることに改めて驚きます。いくつになっても知らないことがわかったと、嬉しくなります。何気ない散歩は、ささやかな発見に満ちています。
そんな初夏のある日、見つけた一本の大きな木。長久手市役所から早稲田を過ぎた先にある安昌寺境内に、銀色に輝いて立っていました！
堂々とした美しい樹形の木は、菩提樹でした。中国原産の落葉高木。

お釈迦さまが悟りを開いたと言われているインド菩提樹とは別の種類です。さわさわと光っているようにみえたのは揺れる葉っぱの裏が灰白色だから。葉の付け根から出た柄の先に小さな香りのよい花を付けます。枯れ葉となり果実をつけたまま風に舞う姿は、小さなヘリコプターのようです。
檀家でもないのに思い立ってはい、一年を通じて四季折々の姿を楽しんでいます。最近ファンを増やそうと、菩提樹の魅力が普及活動中です。
新緑の季節、ぜひ一度足を運んでみてください。